

# 学校ボランティア通信

## ～六角橋中学校～

目次
生徒の変化の中で 気付いたこと 電子情報フロンティア学科4年 木下貴雄
ボランティアについて 考えたこと 情報システム創成学科 4年 鈴木裕人
ボランティアに行く 意味 情報システム創成学科 4年 中村伸平
アシスタント ティーチャーを始めて 人間科学科 3年 岸谷庄平
学校ボランティアATの 活動を通して 人間科学科 3年 杵塚悠
ATとして感じたこと 学んでいきたいこと 人間科学科 3年 野口正明
学校ボランティアを 始めて 人間科学科 3年 長谷見亮

### 生徒の変化の中で気付いたこと

電子情報フロンティア学科4年 木下貴雄

昨年の秋からATのボランティアを始め、半年以上の時間が過ぎました。ボランティアを始めたばかりのころは、目新しいことばかりで、表面的に見える部分を見て学んだと感じていました。しかし、現在はボランティアを続けていることで、生徒の変化を感じるような場面がいくつかありました。

一つは数学の授業での出来事です。毎回授業の導入として行う既習事項の演習問題を、自分が一緒になって教えながらやっと解けていたような生徒がいました。しかし、1ヵ月ほどたってその生徒の様子を見てみると、他の生徒と変わらない速さで問題を解いていました。私はその生徒の成長を強く感じ、非常にうれしい気持ちになりました。それと同時に、教育においては自分が相手になにかはたらきかけたことで、すぐに成果が出なくても、生徒が自分自身で成長するまで待つことが重要なのではないかということを感じました。

また、生徒との人間関係も少しずつ築けてきたのではないかと感じています。人間関係を築けたことによる変化は、以前より授業中に生徒が私に質問をする頻度が増えたことです。質問をするということは、それだけ生徒の学ぶ意欲が高いということでもあると思います。そういった変化にも生徒の成長を感じます。人間関係を築く要因となったのは、やはり生徒とコミュニケーションを重ねたことだと思います。授業前の休み時間でうまくコミュニケーションのとれたクラスは、授業中の生徒からの質問も多く、また自分からも授業中に生徒に声をかけやすいということに気付きました。コミュニケーションが次のコミュニケーションを生み、関係をより深めることができるという好循環が生まれていたように思います。生徒の輪の中に入って能動的にコミュニケーションをとっていくということが大切だ、ということを学びました。

ボランティア活動をさせていただくことで、生徒が今までできなかったことができるようになる場面を見ることが、いかに魅力的で、感動的であるかということ、身をもって知ることができました。週に一度の活動しかしていない私でも、生徒の様々な変化に気付くことができます。毎日生徒たちと顔を合わせている先生方は、私よりはるかに多くの生徒の成長の瞬間というものを目の当たりにしていることと思います。教師という仕事は大変な苦勞も伴うとは思いますが、感動と出会う場面もたくさんあることを知ると、教師を目指す気持ちがより強くなりました。

## ボランティアについて考えたこと

情報システム創成学科4年 鈴木裕人

私は、六角橋中学校でATの活動をしています。教科は数学です。授業の際、生徒が問題を解いているときに、問題に「わからない」や「つまづいている」生徒の手助けをします。また担当の先生によっては、事務的な作業を任されることもあります。

「なぜ、ボランティアを始めたか？」について書きます。その理由は、教師になりたいと思い、現場を知ってみたいと思ったからです。おそらく、アシスタントティーチャーもそうだし、その他にも、ボランティアをしている人の大半は、その理由だと思っています。私は、2月から活動を始めましたが、それから約1ヶ月の間は、ただ行って、ただ見て回って、ただ教えてという状態でした。確かに教え方に関しては、考えさせられることもあり、学ぶことも出来ました。また授業の方法や雰囲気を楽しむことも出来ました。しかし、ある日のように活動することが教師になる上で本当に必要なのか？と思いました。私もまだ教師になったわけではないので、教師の仕事というもののが具体的にどんなものなのかわかりません。しかし、このボランティアの経験からもっと学べること、学べるべきものがあると考えました。

最初に、目標を作ろうと思いました。そこで私は、ボランティアについて、考えました。ボランティアでの活動は、どこまでしていいのか？逆に、なにをしてはいけないのか？教師の仕事は、「生徒指導」、「進路指導」、「学級経営」、「授業」などなど、たくさんあると思います。ですが、上に挙げた「生徒指導」、「進路指導」、「学級経営」、「授業」などに、関わることは非常に難しいです。そういった点に関しては、先生方が行う指導を見て学ぶ方がいいと思いました。

そこで私が考えた目標は、より多くの生徒と信頼関係を構築することだと思いました。信頼関係を築くことは、教師になってからも必要なことだと考えたのです。それを実践する具体的な目標は、1日に10人と会話することです。そんな目標を掲げましたが、簡単ではなかったです。なかなか、10人とコミュニケーションをとることは、難しかったです。それでもなんとかしようと思って、「生徒との会話」を心がけた結果、わかったことがあります。それは、私は「誰の名前もまだ覚えていない」ということです。名前も覚えていないのにコミュニケーションをとることは、やはり難しいです。私たちの間でも、名前を覚えていない人との会話は、気まづいし難しいと思います。そこで、名前を覚えた上で、生徒と関わることにしました。

そのために、担当の先生に名簿を見せてもらい、授業中に指名された生徒の名前を覚えていきました。ちなみに一番簡単なのは、上履きを見ることです。生徒を名前で呼んだことで、生徒から「何で知っているの？」など返事がきます。それに対し、「ちゃんと覚えてよ」と答えると、生徒は喜びます。そんなことを繰り返す行いで、今度は生徒から話しかけてくれたりします。その瞬間はなんだか嬉しいです。

目標を持つことは、自分の活動を充実させてくれます。自分なりの目標を常に持って行動することの素晴らしさを学び、その達成するときの喜びを味わうことが出来ました。

## ボランティアに行く意味

情報システム創成学科4年 中村伸平

私は毎週水曜日に六角橋中学校でボランティアをさせて頂いています。ボランティアを始めて半年が過ぎ、少しずつ生徒に名前を覚えてもらえるようになり、充実した活動ができていますと実感しています。

今年度のボランティアを始めるに当たり、ひとつの目標をたてました。それは「分からない」をそのままにしないということです。なぜこのような目標をたてたかというと、年度末に行われたボランティア報告会の中で半年間の自分の活動を報告した時、同じグループの方から疑問に思ったことをすぐに先生に聞いているか、という指摘を受けました。私はその時、今まで活動中に感じた疑問等をそのままにしていたことに気付きました。ボランティアを行う目的は、授業支援・学習支援はもちろん、私自身も学校現場で多くのことを学ぶことだと思っています。「分からない」をそのままにするということは、自ら学びの機会を減らしていたのです。このようなことから今年度は分からないことをそのままにせず、積極的に先生方とコミュニケーションをとると決めました。

授業中私語が多い生徒への注意の仕方について担当の先生に相談すると、授業には山があり、集中する場面と話しても良い場面の2つの場面の中で、集中すべきところで話していたら注意してほしいというアドバイスを頂きました。今までは分からなくてもそのままにしていたことも先生に聞くことで、今後どのようにすればよいか明確になりました。そのほかにも授業中に気になった生徒への対応の仕方、生徒からの質問に対しての答え方など、分からなかったことに対して相談すると、お忙しい中丁寧に答えて頂き、またプラスして教えて頂くこともあり、多くのことを学ぶことができています。

「分からない」をそのままにしないことにより、以前より実りある時間を過ごすことができています。今後も先生方とのコミュニケーションを引き続き大切に、また生徒とのコミュニケーションも忘れず、生徒から「分からない」と素直に言ってもらえるような存在になりたいです。

### アシスタントティーチャーを始めて

人間科学科3年 岸谷庄平

私は、今年の4月からアシスタントティーチャーに行かせていただいております。数多くのことを学び、自分の力にさせていただいております。大学の授業で学ぶことは、とても重要なことですが、自分の目で見て、実際の現場を肌で感じるのが大切だと私は思いました。その理由は2つあります。

1つ目は、実際の中学校では、先生と生徒の関係を、まじかに見ることができるからです。これは、どんな先生が生徒から話しかけられやすいのか、また、生徒たちへの授業外での心配りといったものが見られるということです。私は、初めの授業などでは生徒の名前も分からず、ただ授業を見ながら大切なところをメモする程度でしたが、段々と生徒たちの名前を覚えて話しかけていくと、生徒たちも嬉しそうに話しかけてくれるようになりました。私が名前を

覚えれば生徒たちも名前を覚えてくれるような質問をしてきてくれるようになりました。このようなことは、実際の教育現場でしか学ぶことができないと感じています。そのことを担当の先生に話したら、とても重要なことに気付いたねと言われました。生徒たちは私たちの行動をよく見ていて、名前を覚えようと努力していることは、生徒たちにも伝わるそうです。このような先生方からの意見も聞けることは、とてもありがたいことです。

2つ目は、私が行かせていただいている中学校ならではのこともありますが、特別支援学級の授業に参加させてもらえるということです。今までは、そういった授業などは、観させていただいたことはなかったのですが、どのように生徒たちと接すれば良いのかさえわかりませんでした。しかし、担任の先生からいろいろ話を聞き自然に授業に入ることができました。

このように、実際にアシスタントティーチャーをしてみなければわからないことがたくさんあります。実際の教育現場を観させていただけるとは、これからの私にとって財産になると感じています。



## 学校ボランティアATの活動を通して

人間科学科3年 杵塚悠

今年1月から六角橋中学校にATとしてボランティアを始め、実際の学校現場を見ることができ、多くのことを学んでいます。六角橋中学校は、出会うどの生徒もあいさつをしてくれます。最初は不安が多かったですが、生徒たちが気持ちよくあいさつしてくれるので、いい雰囲気でした。将来、私は保健体育の教員を目指しています。そこでこのATの活動を通して、授業での声掛け、集会や行事の整列の指示、生徒との関わり方など学びたいと思っていました。しかし、多くのことが、教師の立場から考えるとこんなにも大変だったのだと感じています。授業中しゃべっている生徒に対しても、教師によって注意する方法はさまざまです。声を大きくして注目させる、個人的に注意する、話すのを止めて静かにするまで待つなど違いがあります。すべてが自分にとってとても新鮮でありつつも、どこか懐かしいと感じています。

今年度、六角橋中学校でまたATとしてボランティアをさせていただくこととなり、目標をもって活動しようと心がけています。その目標は、教師によるさまざまな違いを見つけ、それらが生徒にどのような影響を与えているか見ることです。また、特に保健体育科教員の指導法を重点的に見ることで、保健体育科教員はどうあるべきかを感じていき、身につけるのが最終的な目標です。これらを意識して現在活動を行っています。早く生徒たちと仲良くなろうと、先生の真似をしようとした。だが、うまくできませんでした。生徒のことを理解しなければ、その生徒たちは話しくく、近寄り難いからだったのでしょう。私は、教師と生徒の関係というのは日々のコミュニケーションや、生活の様子を見ていないと築くことはできないのかなと感じました。

そこで私は、話しやすい生徒からでも積極的にコミュニケーションをとってまいりました。私は放課後に部活動のサッカー部の指導もさせてもらっていることから、サッカー部を中心に話しかけていき、その近くにいる生徒とも話をするようになっていきました。こうしてしてうちに、生徒のほうから積極的に話しかけてきてくれたりするようになってきました。このようにして、生徒たちとの距離が近くなり、授業中にアドバイスしたり、部活動でも指導をしやすくなっていきました。これからはより多くの生徒と関わりを持ち、教師という立場に近づけるようにしていきたいです。また、この経験が来年度の教育実習や、その後の教育現場などでも生かせるようにしていきたいです。





## ATとして感じたこと

### 学んでいきたいこと

人間科学科3年 野口正明

今年から六角橋中学校でアシスタントティーチャーをしています。活動として保健体育の授業のATをさせていた

だいてます。  
まだまだ始めたばかりで、正直ATとしての働きはなかなか出来ていないのが自分でもわかります。始める前までは、中学校でのボランティアについて深く考えてない部分がありました。しかし、実際にATとして現場に出てみると、中学生との触れ合い、声の掛け方や一つ一つの授業の構成や指導の仕方などから学ぶことが大変多くあり、現在必死に勉強させていただいています。授業の構成を学ぶことは確かに重要なのですが、私が今1番目標にしていることは、気軽に何でも生徒達が話してくれるATになることです。そのためには、私自身がもっと話しかけて行き、少しでも生徒との関わりを増やして行くことが重要だと思っています。少しずつではありますが、回数を重ねるごとに生徒との関わりも増えてきている気はします。これからより意識して継続することで、目標に近づいていきたいと思

います。  
あまり話さない子という認識をしていた生徒でも、こちらから話しかけてみると一気に距離が縮まり、最初とは全く違う印象を持つような生徒が増えてきたの感じます。や

はり大事なことは、こちらから話して心を許しているということをしかりと出していくことです。そうすることで生徒との距離が縮まるというのを肌で感じることができました。毎回ボランティアを重ねるごとに楽しくなっていき、やはり私はこの教師という仕事をしていきたいと、強く思うことができます。授業の準備でトラックを作るということも、生徒の時は深く考えたことはありませんでしたが、実際作るとなると一苦労で半円の測り方などわかるようでわからなかったことが多いです。自分の専門種目ではない競技を、まだまだ勉強していかなければならないということも課題だと感じました。正直、専門種目以外のものを教えていくというのが今の自分にはできなくて、授業でも歯がゆい思いをしていることが多々あります。専門種目は勿論のこと、他の種目のルール、特性、そして先生が発している専門用語が全く理解できていなかったの、これらを勉強していき、深く理解していくことが欠かせないと思っています。また実技をやっていく場面が必ずあるので、生徒の見本となるようスキルアップを図っていかなければならないと思っています。この機会を無駄にしないよう一つ一つの授業を大事にしながら、何でも勉強という態度で臨んでいきたいと強く思っています。



## 学校ボランティアを始めて

人間科学科3年 長谷見亮

私は今年の5月から六角橋中学校に保健体育科のATとして通っています。毎週水曜日1日と、放課後の部活動にも参加させていただいています。1日いると、生徒とのコミュニケーションを取れる時間が多く、多くの先生方の授業に参加できるため、より多くのことを学べます。部活動では、私自身が野球をやっているため、野球部の練習に参加し、生徒と一緒に基礎的なことや生走ったりしています。部活動に参加することにより、生徒との距離感が自然になくなり、よりコミュニケーションが取りやすくなります。

ATを始めてまだ1ヶ月程ですが、多くのことを学びました。先生の授業の進め方や、時間配分、生徒の指導のしかた、授業に集中させるための工夫などです。先生方によって上記のやり方が異なっており、多くの工夫を見ることができます。どの様に授業を進めたら効率良くできるか、生徒を飽きさせずに50分行うかなど、考えて授業を進めていました。

水曜日はよく短縮授業(45分)授業があり、先生方はさらに工夫をしないと実技をやる時間が少なくなってしまう状況でも、説明を短く生徒が理解できるように大きな声で説明をし、前の時間に授業を行っていた先生が次の授業に支障が無いよう、次の授業内容を把握していて、何を残しておけば良いのか、何が足りないのかなどを全て把握しており、先生同士で協力しあう姿を見ることができました。

ボランティア初日、生徒とどの様に接して良いのかわからず、余りコミュニケーションが取れませんでした。部活動に参加した際に、急に生徒との距離が縮まりました。そこから、多くの生徒とのコミュニケーションを取れるようになり、最近では生徒からよく話しかけてくれて、挨拶もしてくれるようになりました。もし半日のATを行っていたら、生徒との距離がここまで早く縮まることはなかったと思います。私はATを行う際に必ず心がけていることがあり、「多くの生徒とのコミュニケーションを積極的にとる」ことです。週一回と限られた時間の中なので、ATを行う際には何か一つ目標をもって行うと良いと思っています。

ATを行うことで、今後の教育実習や将来教員になったときに現場を知っているの、あまり緊張もすることもないと思いますし、授業計画を立てる際にも流れを知っていればつまずくこともないと思います。もちろんATだけでは知ることができないこともあると思いますが、ATに行く、行かないでは大きな差があると思います。気持ちの面でも少しは余裕ができると思いました。今後もATを行う際は常に「多くの生徒とのコミュニケーションを積極的にとる」を心がけ、1日1日自分に足りないことの課題を挙げ、そこから次のATでの目標を立ててやっていきたいと思っています。このATで学んだ全てのことを無駄にせず、今後の教育実習、将来教員になったときに生かせるよう多くのことを学びながら頑張っていきます。

発行日:2014年7月23日

発行所:神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL:045-481-5661(内線4352)

FAX:045-413-4154

E-mail:jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL:[http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher\\_training\\_course/jysp](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp)